



ユニバーサルデザインの視点から指導・支援の改善を目指して Part II

8/23に関西国際大学教授 百瀬和夫先生をお招きし、約100名が参加し研修会を開催しました。オンラインでの研修会でしたが、百瀬先生の問いかけに参加者がチャットで回答するなど、和やかな研修会となりました。印象的なお話をいくつかご紹介します。

【古い教育文化はまだ存在する】

『子ども（生徒）たちを力で抑えられる教師は力量が高い。』『子どもがきちんとしていないと恥だと思う。（見栄や虚栄心）』

★怒る、皮肉る等の2次感情の下に潜む1次感情は全て『恐怖と不安』です。

【学級経営の目的とは？】

『子どもの成長に寄与できる学びの集団を創る！』こと。

★本当にうまくいっているクラスは、先生が怖いからではなく「子どもたちが自分の力で成長しているから」落ち着いています。

【学級の空気感の正体は？】

担任と子どもによる『本気のやり取り』。

★集団（他の子どもたち）は（困っている）子どもへの教師の対応を常に見ています！
困っている子どもへの教師の関わりがその集団で機能する心理形成（空気感）としてクラスに反映されます。

【こんな時、あなたは？】

低学年を遠足に引率します。電車内で静かに過ごさせるためどんな指導・支援をしますか？

★完璧主義をやめること。白黒つけないで済む指導と支援を行います。特性のある子は、つついししゃべってしまいます。

特別な支援の必要な子どもへの指導・支援の基本も教えていただきました。

- ・教師に都合の悪い行動や言動⇒⇒◎「無視（スルーする）」＝「愛の無視」 ▲怒る！叱る！
- ・当たり前に行っていること⇒⇒⇒◎「ほめる」「言葉にして気づかせる。」 ▲無視する
- ・危ないこと⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒◎「止める！」「制止する！」 ▲怒る！叱る！

特別な支援の必要な子どもの指導・支援の基本姿勢

- ①継続性 「あせらない」「あわてない」「（成長を）あきらめない」
実践→振り返り→工夫して→また実践
- ②臨機応変 ◎～であるといいなあ ～なこともあるよなあ
▲～であるべき ～でなければならない
- ③チャレンジ精神 人は初めてのことはだいたい失敗する。やらないと決してできるようにはならない。やってみて初めて分かることがある。

今年2度目の百瀬先生の研修会でした。自分たちの実践を振り返ったり、新たな気づきがあったり、学びの多い研修会でした。百瀬先生の軽快なお話、みんな笑顔に、そして元気になっていました。次回は11月に予定されています。気持ちを楽にして、先生方、一緒に研修してみませんか？